

「令和2年7月豪雨災害」状況報告（9月25日（金）現在）

認定 NPO 法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

1. 家屋の被害状況（参照元：総務省消防庁 9月3日 14:00 発表）

URL：https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/200903_oame50.pdf

熊本県	住家被害：全半壊 4,200 棟以上 一部破損 1,200 棟以上 床上浸水 2,000 棟以上
大分県	住家被害：全半壊 200 棟以上 一部破損 300 棟以上 床上浸水 200 棟以上
福岡県	住家被害：全半壊 1,200 棟以上 一部破損 1,100 棟以上 床上浸水 400 棟以上

2. 支援状況

■ 熊本県

< 情報共有会議の開催 >

- ・「くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）」により、現在、毎週火・木 18 時より「火の国会議」水害版として開催。（「火の国会議」議事録は、右記 KVOAD web サイトより閲覧可能 <https://www.kvoad.com/> ※熊本地震版の同時開催もあり）
- ・9月19日に開催された「球磨村ボランティアミーティング（仮称）」では、球磨村社協と地元支援団体によって、被災した家屋について役割分担や作業基準について話し合われている。

< 避難所運営 >

- ・運営支援の知見をもつ支援団体が、一部の避難所において運営サポートを行い、避難された方がたの環境改善に取り組んでいる。
- ・球磨村の避難所では、コロナ禍において安全・衛生の観点から、避難所の食の単調化が見られ、栄養面の偏り等が心配されていた。村の栄養士の方も尽力し、現在4社の弁当が日替わりで入っている。内、1社は暖かい食事の提供を行っており大変好評。
- ・9月15日より球磨村のホームページにおいて、炊き出しの受け入れが開始された。
<http://www.kumamura.com/gvousei/2020/09/12051/>
※県内在住の方限定。また、炊き出しチェックシートの遵守など、活動条件を守る方のみ。
- ・球磨村では避難所間の連携を図り、仮設住宅に入居できない避難者の方の今後の行先について、情報共有を行っている。ムービングハウス等への入居が開始される一方、長期化している避難生活により、今後の生活への不安が出てきており、細やかなケアが必要とされる。仮設入居のサポートとともに、避難所に残られている方のサポートも並行し行っている。

< 仮設住宅への入居 >

JVOAD は KVOAD と共に、八代市の仮設住宅を訪問。木造瓦葺の作りは、従来のプレハブ型より住みやすそうな印象を受けた。車いす用のスロープも予め設置されており、熊本地震の時よりも改善がみられる。



八代市仮設 談話室



八代市仮設住宅 車いす用スロープ

被災地でも気温が下がり、秋の様子が見えてきました。仮設入居が進む中、住民の方の生活必需品については、冬物の衣類や布団など、寒さ対策が急がれます。これらの需要は、仮設住宅入居者の方に限らず、在宅避難されている方々にも必要とされるため、被災者全体のニーズ把握が必要となってまいります。被災地では、行政からの提供と合わせて、民間支援についての調整が急ピッチで進められております。